

2023年 11月28日

「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」
共通テーマ4 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023
「文理横断・分離融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」

メニューⅢ 「インテンシブ教育プログラム」

早稲田大学 **ソーシャルイノベーション・
アクセラレートプログラム**

登壇者

山田寛邦（大学総合研究センター）

事業計画責任者
プログラム責任者

須賀 晃一（副総長）
早田 宰（社会科学総合学術院長 兼 社会科学部長）
北村 能寛（社会科学部教務担当教務主任）

知識集約型社会を支える人材育成と早稲田大学の教育ビジョン

「知識集約型社会」とは

○知識を共有・集約し、様々な**社会的課題を解決**、新たな**価値を創造**する社会。Society 5.0。

○**人間の存在の深い理解**を踏まえた**社会設計**が必要。人文学と社会科学を含めたすべての分野。

○**産学共創**が必要。

※日本学術会議
(平成30年(2018年)11月28日)

早稲田大学全体として目指す教育

早稲田大学教旨

- 1.学問の独立 –世界へ貢献する礎–**
本質を見据えた自律的かつ自由な相互作用の中で**人文科学、社会科学、自然科学それらの融合領域**の討究。
- 2.学問の活用 –世界へ貢献する道–**
文化、社会、産業への活用の道を開くことによって発展する。**実践との相互作用**を通して新しい時代を切り拓く。
- 3.模範国民の造就 –世界へ貢献する人–**
周囲と連帯して状況を切り拓くことのできる知識、道徳的人格と勇気を持った**地球市民を育成**。

身につける能力や素養 (ディプロマポリシー)

- ① 構想・構築力
- ② 問題発見・解決力
- ③ コミュニケーション力
- ④ 健全な批判精神
- ⑤ 自律と寛容の精神
- ⑥ 国際性

Waseda Vision 150

- ①「たくましい知性」の育成
- ②「しなやかな感性」の涵養
- ③学修者本位の教育

本事業における人材輩出像



高度な知を集約しグローバル 이슈に取組み社会変革を共創する
「**ソーシャルイノベーター**」

本事業において実現すること

1. 社会科学部に先行的に**インテンシブ教育**を導入
2. **インテンシブ教育**による学際カリキュラムでの教育・学修成果の具現化
3. **インテンシブ教育モデル**の普及

教育システム改革

- ① **100分授業・クォーター制**推進
- ② **内部質保証サイクル**
大学点検・評価委員会強化
- ③ **学修成果の可視化**

【事業全体計画概要】 ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム

教育システム改革

- ◆クォーター制の実質化（実装の拡大・効果創出）
 - ・能動的学習の機会拡大（学生側）
 - ・教育・研究力の強化促進（教員側）
- ◆教育効果検証におけるIRの活用促進
 - ・学びの自己構築サイクルの加速化、学際教育効果の可視化

全学波及・学外波及

- ◆質保証システム
 - ・インテシブ教育の効果検証の方法や教学に関するデータ分析体制
- ◆高度な学際教育モデル
 - ・課題解決型授業への「高度化移行」、専門分野特化授業への「学際化導入」
 - ・学際ルーブリック、メンター制度 等

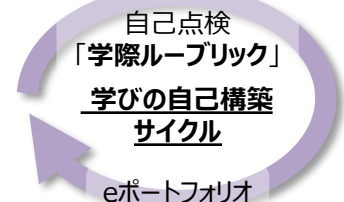


インテシブ教育

メリハリある時間割設計

早期・集中型のカリキュラム

学生-教員：コミュニケーション促進
学生-社会：社会連携活動の活性化

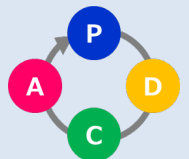


セーフティーネット・メンタリングチーム

実証分析

大学総合研究センター

- ・教育効果の調査・分析
- ・学際教育ルーブリックの実践
- ・FD・SD研修 等



コミュニティ・社会開発

グローバル 이슈の解決

平和構築・国際協力

SDGs

イシュー×ディシプリンによる
新たな知「学際研究の方法」

学問の基礎「ミニマム・ディシプリン」

全学基盤教育・データサイエンス教育

インテシブ教育の導入
(アクセラレート)

Cross-Disciplinary Approach

教養→問題解決までやる高度な学際教育

育成する人材像

高度な知を集約しグローバル 이슈に
取組み社会変革を共創する
ソーシャルイノベーター



答えのない問題に挑戦する 多様性を理解する
「たくましい知性」「しなやかな感性」

Waseda Vision 150

導入の効果

学生側

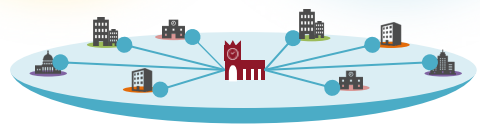
能動的学習の機会拡大

- ・留学、サマースクール
- ・NPO
- ・スタートアップ
- ・共同研究
- ・インターンシップ
- ・ボランティア
- ・フィールドワーク

教員側

教育・研究力の強化促進

- ・FD（教授法習得）
- ・学生への密な指導
- ・社会貢献活動
- ・研究時間増加
- ・国際共同研究拡大
- ・オープンイノベーション



社会科学部
学際教育アプローチ



「答えのない問題に、自分なりの解決策を考え出せる知性」「多様性」を有する人材の育成が急務！

Society5.0に向けた
知識集約型社会における
大学の役割の変化

教育（知識の獲得）
研究（知識の創造）

知識の獲得
知識の創造 + 知識の共有
社会変革の共創



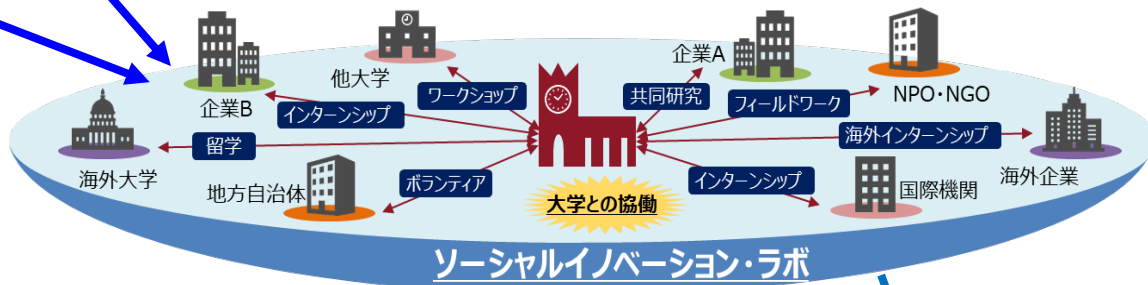
学びのエコシステム

◆ 学生が自ら学びをデザインし、それを支える「学びのエコシステム」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	春クォーター (インテンシブ)		夏クォーター		夏休み	
(時間割)	月	火	水	木	金	土
1						
2	🧠	⚖️	🌱	🧠		♿️
3	📖	⚖️	🌱	📖	🗣️	♿️
4		🌐	🌱	📦	🏥	♿️
5	💰	🗣️	🌱	💰	🌐	♿️
6	🏥		🌱	💰	📦	♿️

<インテンシブ学習・教育導入の効果>

- | | | | |
|-----------|--|-----------|---|
| 学生 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学、サマースクール ・フィールドワーク ・インターンシップ ・ボランティア活動 等 | 教員 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究時間の増加 ・国際共同研究、共同指導の拡大 ・社会貢献活動 ・ルーブリックに基づく学生個別指導 等 |
|-----------|--|-----------|---|



イシューベースで学生自身がインテンシブ学習をデザイン

学び方を学ぶ

自分オリジナルの学習戦略の構築

メンター (メンタリングチーム)



- ・学生が自らデザインする学びの構築支援
- ・セーフティーネット、ケア
- ・進路アドバイス 等

早稲田ポータルオフィス

・学修支援、セーフティーネットでの連携

学生



学びのエコシステム

- ・学生が能動的にインテンシブ学習をデザインするフレームワーク
- ・インタラクティブな学びのシステム・集団の構築

教員



社会連携コーディネーター

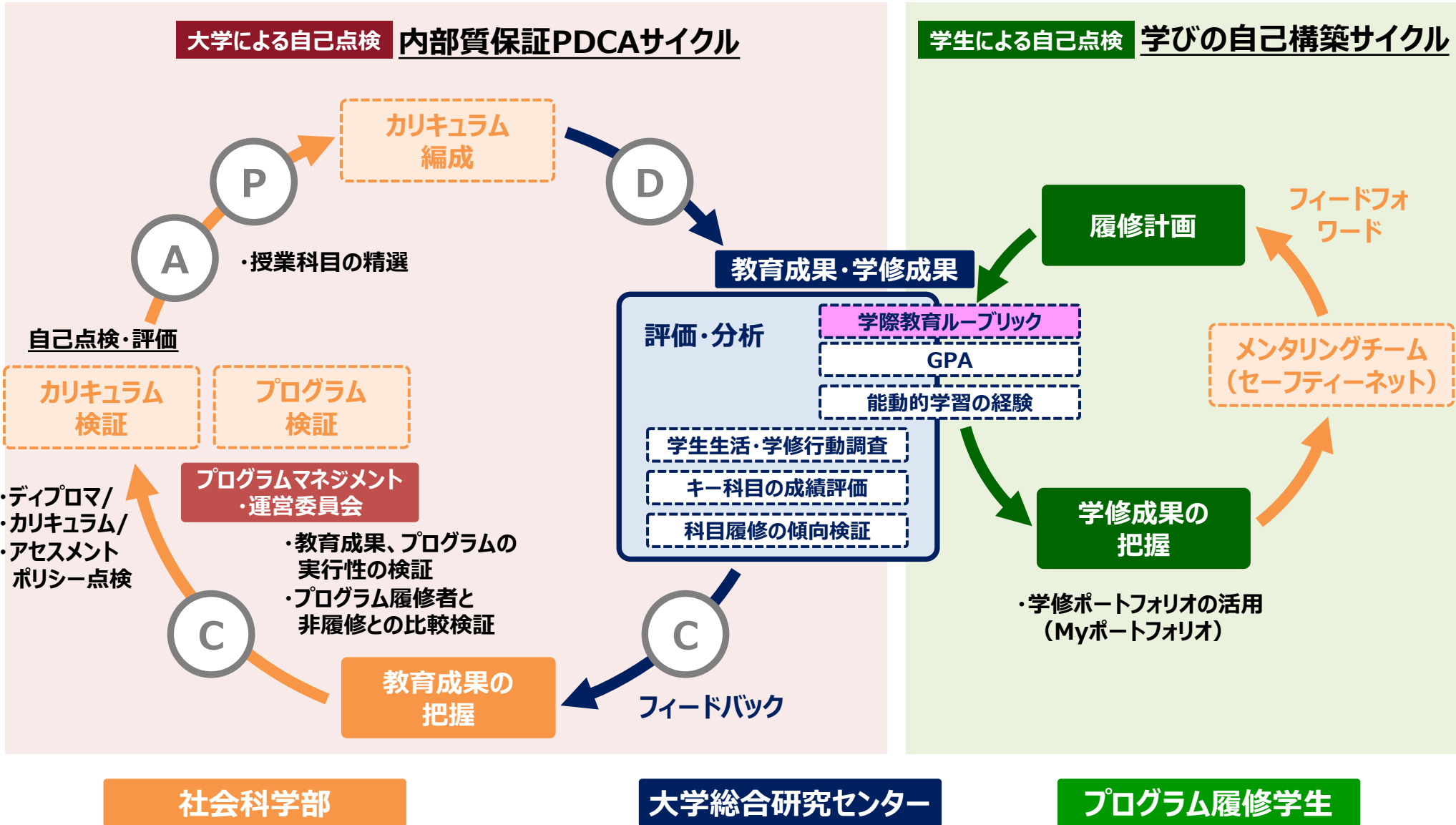


- ・ソーシャルイノベーション・ラボとの橋渡し
- ・企業、自治体、NPO等との連携
- ・社会連携教育のアドバイス

・履修済み学生、卒業生がメンター、社会連携コーディネーターとして参画する
循環型サポートシステム

プログラムの効果検証・評価サイクルの全体像

- ・ インテンシブ教育導入の効果を実証データに基づき多面的に検証



ルーブリックの開発・運用

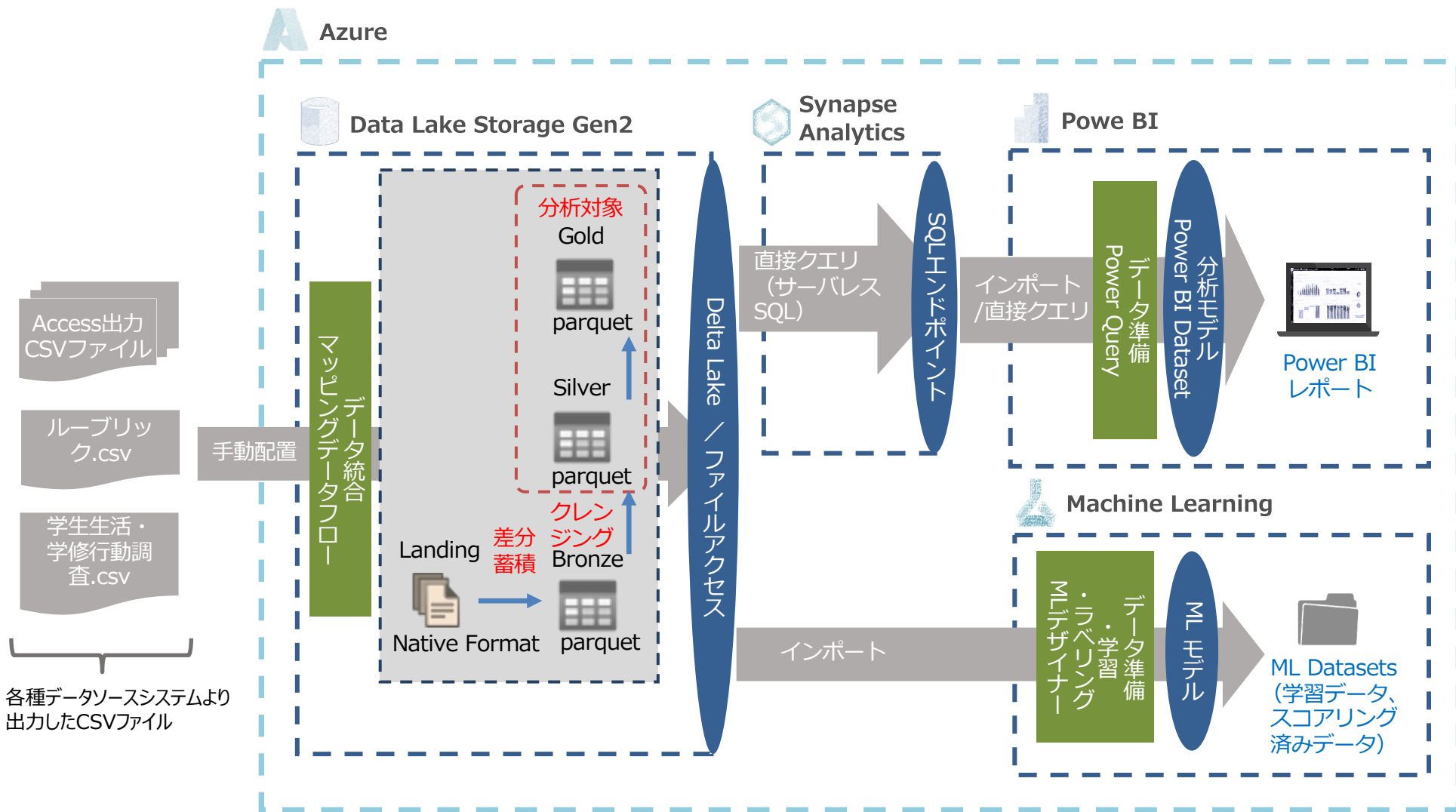
・ 学際・社会科学ルーブリック全体

社会学DP全体：複雑な社会問題を的確に把握・解明して、解決策を立案できる力を養う。高い志のもとに社会課題やその解決策を明らかにし、国際社会および地域社会において周囲を巻き込みながらその実現を図る、ソーシャルイノベーションの担い手を育成する。

DP	資質	評価の観点	観点の説明	評価の 尺度	5 最高基準	4 中間基準 (上)	3 中間基準 (中)	2 中間基準 (下)	1 許容基準	0 不合格
(社会科学の基礎的理解) 未知の問題や将来の危機に対して、豊かな感性による洞察力、多様な価値観の理解力、問題発見力を身につける。 確かな現実認識と社会の本質を理解する分析能力を身につける。	知識と志	<ul style="list-style-type: none"> ・高い志 ・社会科学の知識 ・自己認識 ・協働と巻き込み ・「知識と志」総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や世の中を良くするための高い志を持ち、自分の信念が内包する矛盾も理解している ・社会科学の理論や学術的な知識、社会や興味のある領域の解決すべき課題について知識がある ・自分の考えや立ち位置を俯瞰して捉え、学術的・社会的に位置づけた認識・説明ができる ・他者と協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を内外に伝え、ひとを巻き込んでいる ・世の中を良くする高い志と社会科学の知識があり、社会課題解決のプロジェクトを、協働で進められる 							
(学際性) 多領域の知を結集した問題解決能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。	学際性	<ul style="list-style-type: none"> ・社会構想 ・課題解決の実践 ・知識創造 ・学習継続 ・「学際性」総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・多領域の知識に根ざし社会問題を構造化して捉え、解決策を導出し、社会のより良い状態を構想できる ・社会課題解決のためのプロジェクトや活動を、計画・実行できる ・活動をふり返り、意味づけ、新しい知識を作り出し、発表できる ・学際的な問題意識を拡張し、価値と知識を作りながら、学び続ける意欲がある ・多領域の知識に根ざして社会を構想し、社会を良くする活動を通して、学際的に学び続けることができる 							
(臨床性) 理論と実践、思考と行動を往還しながら、矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な自己修正力を身につける。	臨床性	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性と即興 ・粘り強さ ・メタ認知 ・学習棄却 ・「臨床性」総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に行動しながら、即興的に改善できる ・失敗しても諦めずに、修正しながらやり通すことができる ・活動の省察と意味づけにより、自分の強みと課題、理論と現実の間の矛盾や葛藤を認識できる ・学習棄却することで、新しい価値を受け入れ、状況に適応できる ・主体的・即興的に行動し、理論と現実の矛盾や葛藤を認識しながらも、状況に適応していくことができる 							
(国際性) 多様な国、言語、価値、利害関係を背景とする主体とコミュニケーションできる国際的な表現力と協働力を身につける。	国際性	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的コミュニケーション力 ・国際配慮 ・国際意識 ・国際協働 ・「国際性」総合 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の運用能力があり、情報収集・議論・発表ができ、苦手意識がない ・外国人利害関係者の、文化や価値観に配慮し、理解する姿勢がある ・自分をグローバル社会の一員として位置づけ、世界情勢や国際的な問題・課題を理解している ・外国人と協働で、グローバルな視点で対話し、課題解決の活動を行うことができる ・国際的な意識や配慮があり、外国語を用いて外国人と協働しながら、社会課題解決の活動を展開できる 							

学修成果効果検証システム①

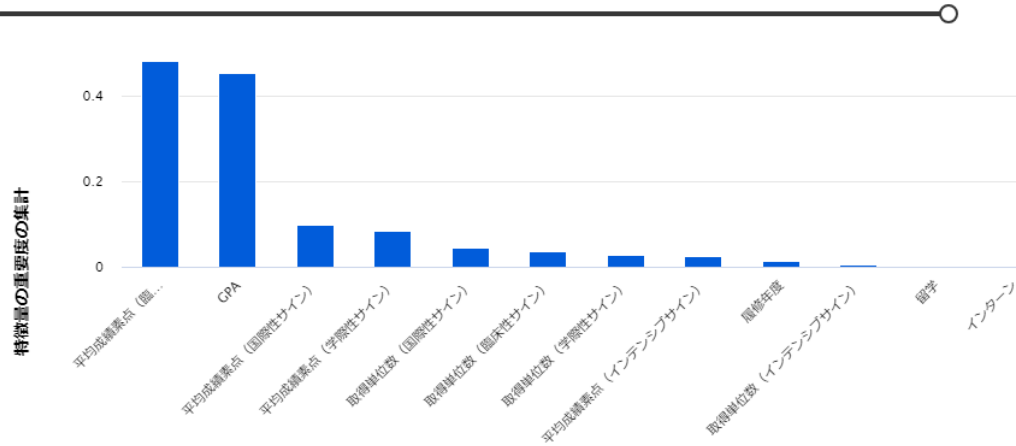
全体アーキテクチャ



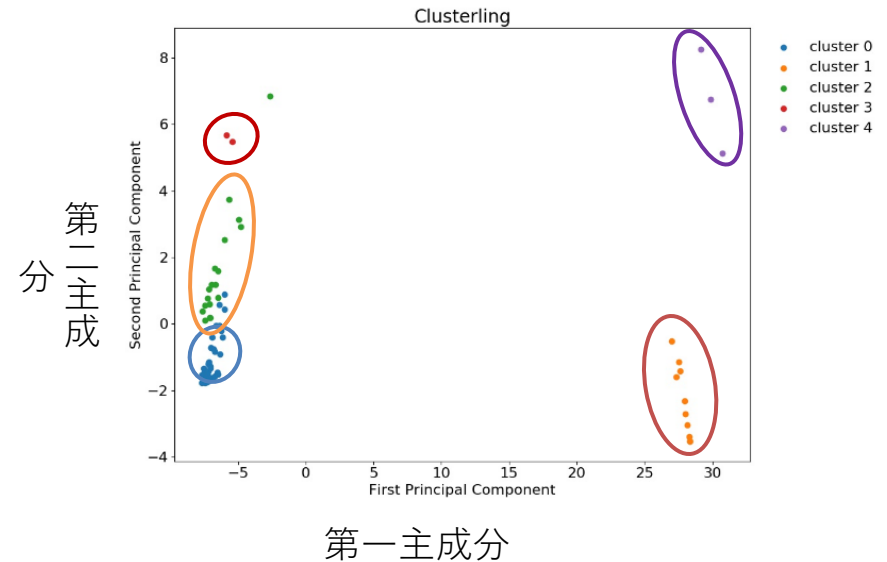
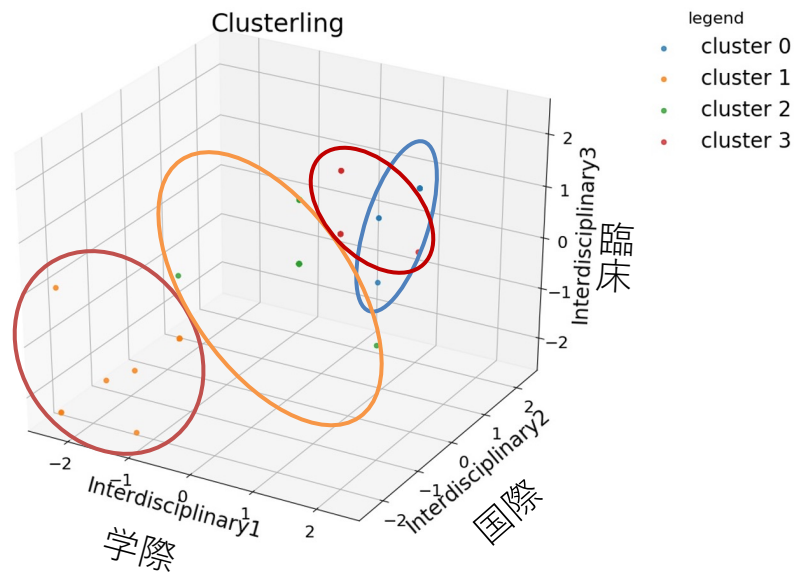
学修成果効果検証システム②

- 教師あり学習：オートマシーンラーニング（AML），学修成果に与える影響の大きい項目を選定（デモデータ）

重要度別の上位 12 機能

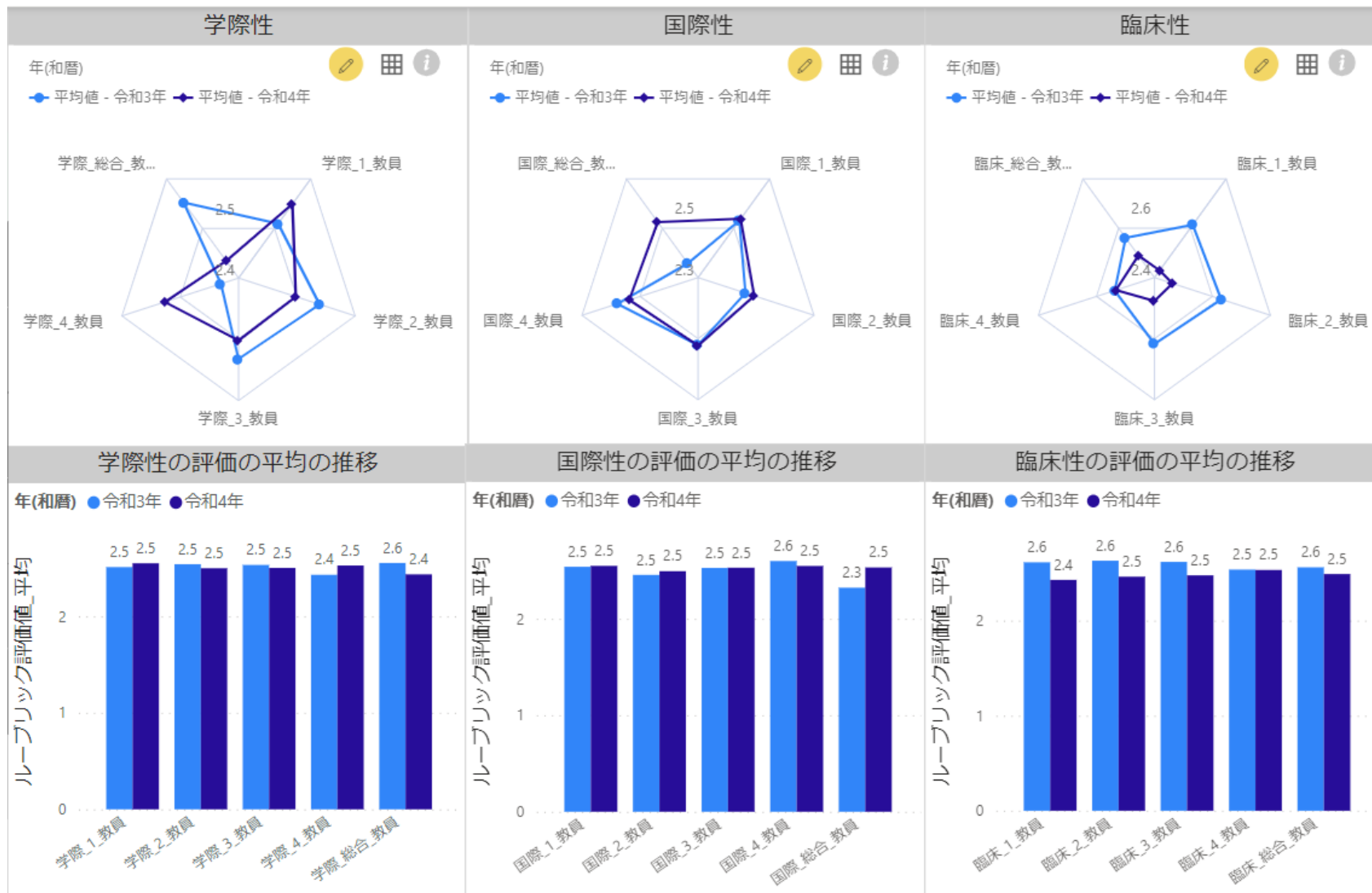


- 教師なし学習：クラスタリングによる分類（デモデータ）



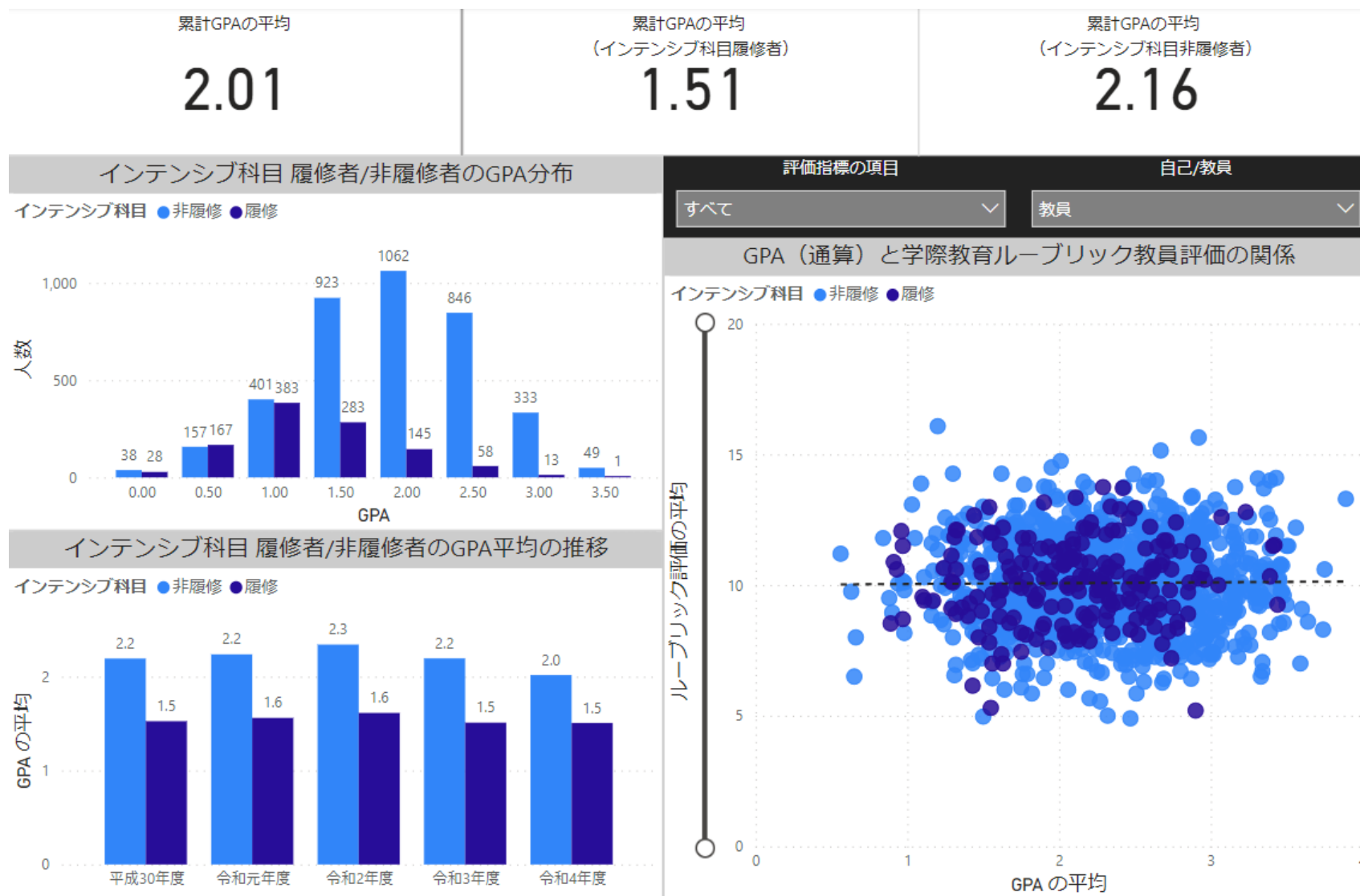
学修成果の可視化①

- Power BIでDP 3要素の経年変化を可視化（デモデータ）



学修成果の可視化②

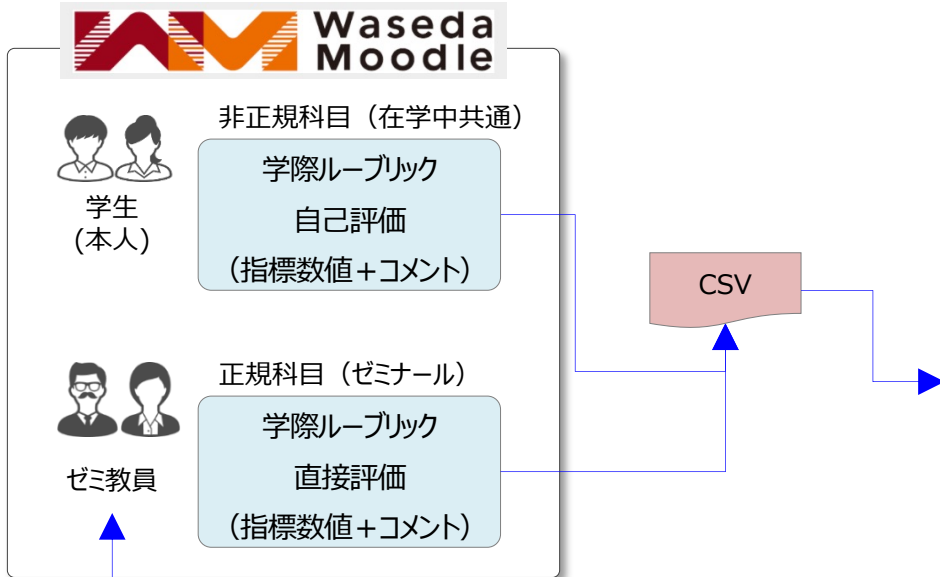
- Power BIでGPAやルーブリックの分布を可視化（デモデータ）



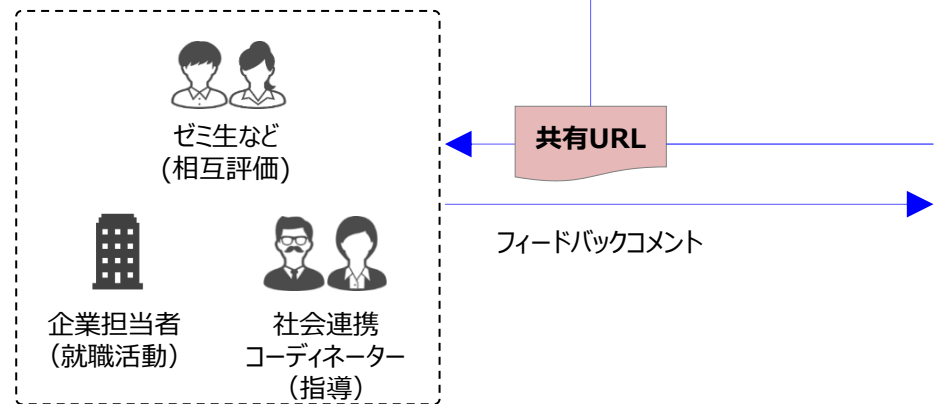
My portfolio連携

● My portfolioによる学修成果の可視化

- ・ 学生が自身の成長を可視化し対外的に説明できるよう、学際ルーブリックの評価結果を可視化する機能を実装
- ⇒ 学生はディプロマサプリメントとして一覧化が可能



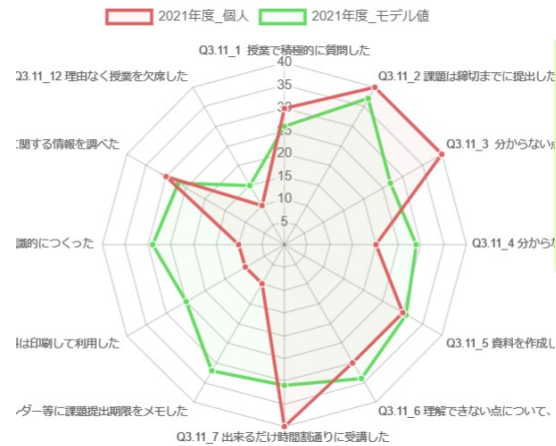
自己評価を参照 (適宜)



MyPortfolio

社学全学生グループ

レーダーチャート (ワークシート機能)



比較対象

- ・ 自己評価と教員評価※
- ・ 自己評価の過去と現在
- ・ 自分と全体 etc...

※教員評価を学生に開示するかどうかは検討中

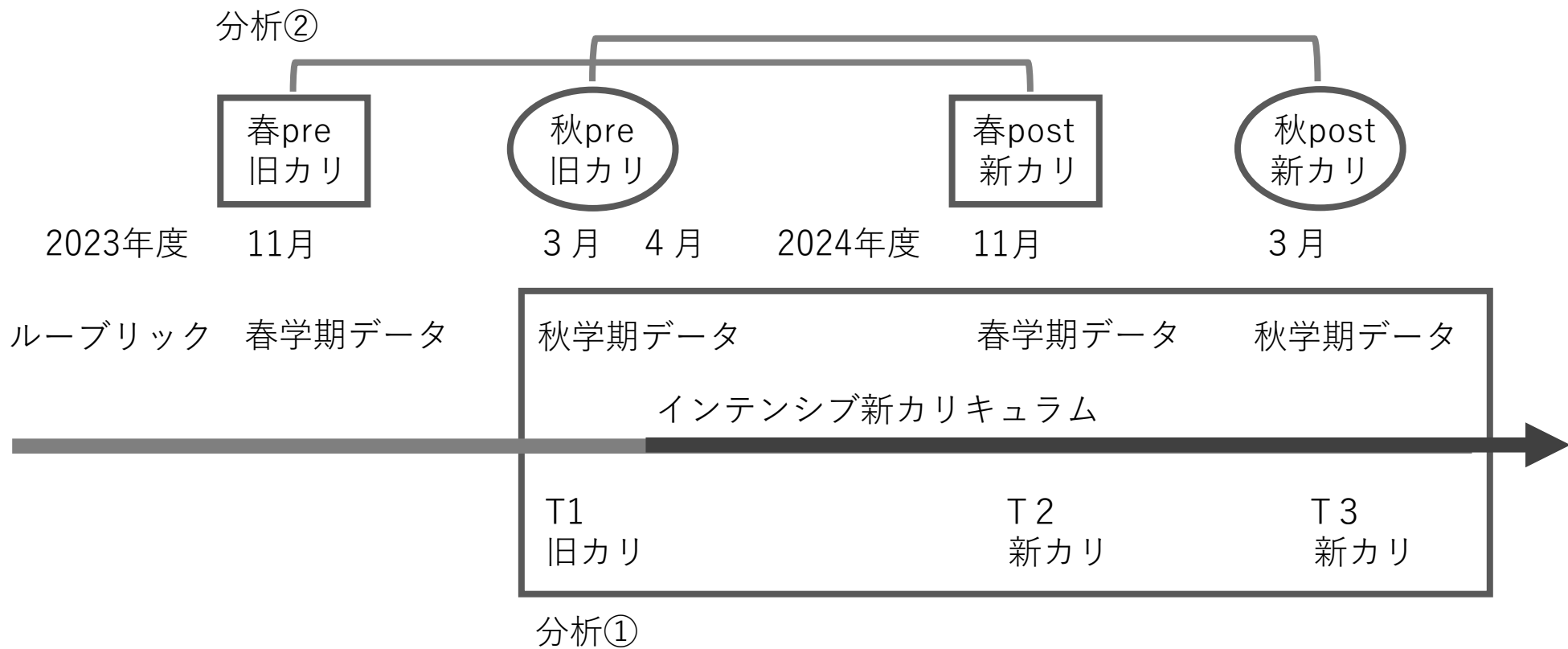
学生個人

ディプロマサプリメント (ポートフォリオページ機能)

<p>1.1 姓 前姓</p> <p>1.3 卒業月日、country of birth [2006年10月01日] 日本</p> <p>2.1 資格名 前職技術士(専門職)</p> <p>2.2 主要学修分野 工学、設計工学、技術経営</p> <p>2.3 現在所属の名称 後援技術大学院大学</p> <p>2.4 学修機関の名称 上記の上野</p> <p>2.5 教育/学修において修得する言語 日本語</p> <p>3.1 卒業・修了資格 前職技術士(専門職)</p> <p>3.3 受給資格 学生/学修の修得進捗に合格した者</p> <p>4.1 履修動機 正職学生(Full time)</p> <p>4.2 プログラムの要件/卒業生の資格要件 1.履修単位数 40単位以上(必修科目12単位、選択科目28単位以上) 2.次の必修科目の履修修得 ・イノベーションデザイン特別実習 1(6単位) ・イノベーションデザイン特別実習 2(6単位)</p>	<p>1.2 名 花子</p> <p>1.4 学籍番号 [1111111]</p> <p>2. 資格 資格区分</p> <p>3. 資格レベル 3.2 プログラムの公式期間 2~3年</p> <p>4. 履修内容及び成果</p>	<p>4.00</p> <p>5. 資格保有者の能力</p> <p>5.1 新たな学修への意 自分の修士1次試験合格をきっかけに、社学大学院で知識・技能を身につけて実践的な学びができる。</p> <p>5.2 職業上のスキル 社学大学院で学修したことで、知識をプログラムで実践できる。</p> <p>6.1 特記事項</p> <p>6.2 進捗情報ソース 産業技術大学院大学 http://ait.ac.jp/ 前職技術専攻 http://ait.ac.jp/taeet_program/taeet/</p> <p>7. 証明書 本ディプロマサプリメントは、下記の原本を参照している。 7.1 学位授与証明書発行日 2014年11月22日 3.8 分節 7.2 ディプロマ/学位/修了証明書発行日 2014年11月22日 7.3 成績証明書発行日 2014年11月22日 7.4 履修修得日 2014年11月22日 7.5 審査委員会委員長(学長)</p>
---	--	--

今後の分析の予定（ループリックを活用した追加分析）

- 分析① 3時点（2023年度秋-2024年度春-秋）での効果検証
- 分析② 2023年度-2024年度（春-春・秋-秋学期ごと）比較



プロジェクト型学修（正課外）におけるルーブリック評価の活用



ソーシャルイノベーションワークショップ^o
(ルーブリック事前-事後実施)



産官学連携ソーシャルイノベーター育成ワークショップ^o
(ルーブリック複数時点実施)



産学連携課題解決型ワークショップ^o
(ルーブリック事前-事後実施)

2023年 11月28日

「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」
共通テーマ4 参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023
「文理横断・分離融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」

ご清聴ありがとうございました

メニューIII 「インテンシブ教育プログラム」

早稲田大学

ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム

登壇者

山田寛邦（大学総合研究センター）

事業計画責任者
プログラム責任者

須賀 晃一（副総長）
早田 宰（社会科学総合学術院長 兼 社会科学部長）
北村 能寛（社会科学部教務担当教務主任）

知識と志ループリック

DP：未知の問題や将来の危機に対して、豊かな感性による洞察力、多様な価値観の理解力、問題発見力を身につける。確かな現実認識と社会の本質を理解する分析能力を身につける。

評価の観点	評価の尺度	5 最高基準	4 中間基準（上）	3 中間基準（中）	2 中間基準（下）	1 許容基準	0 不合格
	観点の説明						
高い志	社会や世の中を良くするための高い志を持ち、自分の信念が内包する矛盾も理解している	世のため人のためになる高い志を持っており、自分の信念が内包する矛盾を理解した上で、志を推し進める意義を明快に説明できる	社会を良くしたいという志を持っており、自分の信念が内包する矛盾に目を向けながら、志を大切に自分なりの理由を説明できる	社会を良くしたいという志を持ちつつあり、同時に、自分の信念には矛盾があるのではないか、という視点も持ちつつある	社会を良くしたいという志を模索しているが、自分の信念に矛盾があるのではないか、という視点は持っていない	社会を良くすることに意識は向けているが、志というほどではなく、また自分の価値観に矛盾があるとは考えてはいない	社会を良くする主体としての意識が低く、志が低く、自分の考えや価値観に矛盾があるとは考えず、独善的である
知識	社会科学の理論や学術的な知識、社会や興味のある領域の解決すべき課題について知識がある	社会科学の理論や学術的な知識が十分にあり、社会情勢や課題、興味のある領域の課題もとてもよくわかっている	社会科学の理論や学術的な知識はそれなりに多く、社会情勢や課題、興味のある領域の課題も比較的良好にわかっている	社会科学の理論や、社会情勢や課題、興味のある領域の課題について、一応程度の知識を持っている	社会科学の理論や、社会情勢や課題、興味のある領域の課題について、一応の知識はあるが偏りがみられる	社会科学の理論や、社会情勢や社会課題について、何かしらの知識はあるが、偏っている	社会科学の勉強が不十分で、社会情勢や社会課題に関する知識も満足のいく水準ではない
自己認識	自分の考えや立ち位置を俯瞰して捉え、学術的・社会的に位置づけた認識・説明ができる	自分の考えや立ち位置をしっかりと俯瞰して捉えており、学術的・社会的に正確に位置づけた偏りのない認識・説明ができる	自分の考えや立ち位置を俯瞰して捉えており、学術的・社会的に位置づけた認識・説明ができ、偏りもほとんどない	自分の考えや立ち位置を、ある程度俯瞰して捉えており、学術的・社会的に位置づけた認識・説明もできてはいるが、偏りはみられる	自分の考えや立ち位置を、少しは俯瞰して捉えられ、学術的・社会的に位置づけた認識・説明もできつつあるが、偏りはある	自分の考えや立ち位置は、最低限俯瞰しているが、学術的・社会的に位置づけた認識・説明は正確ではなく、偏りがある	自分の考えや立ち位置をまったく俯瞰できておらず、学術的・社会的に位置づけず、主観的で偏った認識・説明しかできない
協働と巻き込み	他者と協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を内外に伝え、ひとを巻き込んでいる	他者と優れた協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を内外にとてもわかり易く伝え、ひとを巻き込み大きな動きに発展した	他者と良好な協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を内外にわかり易く伝え、ひとを巻き込めていた	他者と協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を、内外にある程度わかり易く伝え、多少ひとを巻き込めていた	一応他者との協働でプロジェクトを進め、問題意識や活動の意義を、内外に一応伝えてはいるが、それほどひとを巻き込めてはいない	プロジェクトでの他者との協働は限定的で、問題意識や活動の意義の伝え方が極めてわかりにくく、ひととはほとんど巻き込めていない	他者との協働でのプロジェクトをしていない、問題意識や活動の意義の伝え方がわかりにくく、ひとを巻き込もうとしていない
「知識と志」総合	世の中を良くする高い志と社会科学の知識があり、社会課題を解決するプロジェクトを、協働で進められる	世のため人のためになる高い志と、幅広い社会科学の知識を持ち、社会課題解決の新たなプロジェクトを、他者との優れた協働で進められる	社会を良くしたいという志を持ち、社会科学の知識を比較的多く持ち、社会課題解決のプロジェクトを、他者と良好な協働で進められる	社会を良くする志をもちつつあり、ある程度の社会科学の知識があり、社会課題と関連したプロジェクトを、他者と協働で進められる	社会を良くする志を模索しており、社会科学の知識は一応あり、何らかのプロジェクトを、一応他者と協働しながら進められる	社会を良くする意識はあるが、社会科学の知識は偏っており、何らかのプロジェクトを行っているが、他者との協働は少ない	社会を良くする意識がなく、社会科学の勉強は不十分で、プロジェクトをほぼ行っておらず、他者との協働もない

学際性ループリック

DP：多領域の知を結集した問題解決能力と社会を切り拓く社会構想力を身につける。

評価の観点	評価の尺度	5 最高基準	4 中間基準（上）	3 中間基準（中）	2 中間基準（下）	1 許容基準	0 不合格
	観点の説明						
社会構想	多領域の知識に根ざし社会問題を構造化して捉え、解決策を導出し、社会のより良い状態を構想できる	多領域の知識に根ざした問題設定ができ、学際的に取り組む根拠が明確で、実現可能で画期的な解決策を導出し、社会のより良い状態を構想できる	多領域の知識に根ざした問題設定ができ、学際的に取り組む根拠を示しており、実現可能な解決策を導出し、社会のより良い状態を構想している	多領域に根ざした問題設定をしているが、学際的に取り組む根拠はあまり示しておらず、社会のより良い状態を構想しているが、必ずしも実現可能ではない	多領域に根ざした問題設定をしているが、学際的に取り組む根拠はほとんど示しておらず、構想した社会は、問題が解決されているが、実現可能性はかなり低い	多領域に関係した問題設定をしているが、学際的に取り組む根拠がなく、構想した社会は、問題が解決された、より良いものとはいえない	多領域に根ざした問題設定ができず、社会のより良い状態の構想もできていない
課題解決の 実践	社会課題解決のためのプロジェクトや活動を、計画・実行できる	問題解決の活動やプロジェクトの計画・実行し、目的は高いレベルで達成され、自分や関係者は、高い満足を感じている	問題解決の活動やプロジェクトの計画・実行をし、目的はある程度達成され、自分や関係者は、ある程度高い満足をした	問題解決の活動を計画・実行し、何らかの成果を作り出し、自分や関係者の満足度は概ね普通である	問題解決の活動を計画・実行し、わずかながら成果をだしているが、自分や関係者の中に消化不良が残った	問題解決活動は一応しているが、計画は途中で終わり、当初計画されていた成果は得られず、自分や関係者の満足度は低い	問題解決の活動を計画・実行していない、自分や関係者は満足していないか、元々課題解決にあまり意欲がない
知識創造	活動をふり返り、意味づけ、新しい知識を作り出し、発表できる	自分の活動を深くリフレクションし、理論的・社会的に意味づけ、新しい知識を作り出し、独自の発表のステージを作った	自分の活動を十分リフレクションし、理論的・社会的にある程度意味づけ、自分なりの知識を作り、工夫した発表をした	自分の活動のある程度リフレクションし、深い考察ではないが意味づけをしており、発見をまとめて発表した	自分の活動のリフレクションはわずかではあるが、一応意味づけをし、気づいたことをまとめて発表した	自分の活動のリフレクションの機会は最低限度であり、感想をまとめて発表はした	自分の活動のリフレクションをほぼしていない、意味づけができておらず、自分の活動や発見について発表していない
学習の拡張	学際的な問題意識を拡張し、価値と知識を作りながら、学び続ける意欲がある	新たに根拠のある学際的な問題意識を拡張し、これからも価値と知識を作りながら、生涯を通じて学び続ける意欲がある	学際的に問題意識を広げ、価値と知識を作ることで、これからも学び続ける意欲がある	学際的な問題意識を広げ、価値と知識を作りながら学ぶ意欲は、それなりにはある	学際的な問題意識を広げていきたい、学び続けたい、漠然と思っている	学際的な問題意識は持っているが、これを拡張し、価値と知識を作りながら学び続けることにあまり意欲はない	学際的な問題意識を持っていない、価値と知識を作る意義を理解していない、学び続ける意欲がない
「学際性」 総合	多領域の知識に根ざして社会を構想し、社会を良くする活動を通して、学際的に学び続けることができる	多領域の知識に根差した画期的な社会構想ができ、問題解決のプロジェクトを高いレベルで実現され、生涯を通じて学際的に学び続ける意欲がある	多領域の知識に根差した社会構想ができ、問題解決のプロジェクトは十分実現され、これからも学び続ける意欲がある	多領域に根差した社会構想は根拠が少ないが、問題解決のプロジェクトは何らかの成果を出しており、ある程度これからも学び続ける意欲がある	多領域に根差した社会構想は根拠がほとんどなく、問題解決のプロジェクトの成果はわずかであり、これからも学び続けたいと漠然と思っている	多領域に根差した社会構想は根拠がなく、問題解決のプロジェクトはほとんど成果を出しておらず、これからも学び続ける意欲はほとんどない	多領域に根差した社会構想をしておらず、問題解決のプロジェクトを実行したおらず、続ける意欲はない

臨床性ループリック

DP：理論と実践、思考と行動を往還しながら、矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な自己修正力を身につける。

評価の観点	評価の尺度						
	観点の説明	5 最高基準	4 中間基準（上）	3 中間基準（中）	2 中間基準（下）	1 許容基準	0 不合格
主体性と 即興	主体的に行動しながら、即興的に改善できる	問題を自分ごととして捉え、責任感と高い意欲をもって主体的に行動し、即興的に改善することで、予定以上の結果を出している	問題を自分ごととして捉え、意欲と主体性をもって行動し、即興的な改善をすることができる	問題をある程度自分ごととして捉え、ある程度の意欲と主体性をもって行動しており、即興的な行動も見られる	問題を自分に関係あるものとして捉えようとしており、主体性はそれなりにあり、即興的な行動もわずかにある	問題に対して最低限の主体性をもって行動しており、即興的に動こうとしているが、うまくできていない	問題に対して受け身であり、主体的には行動せず、指示や計画通りの行動をするのみで、即興的な改善をしない
粘り強さ	失敗しても諦めずに、修正しながらやり通すことができる	困難や失敗におちいても決して諦めずに、粘り強く修正し、やり抜く力があり、期待以上の結果を出している	困難や失敗におちいても諦めずに、修正しながらやり通し、期待された結果を出すことができる	困難や失敗におちいても、諦めることはなく、ある程度の修正をした上で、何らかの結果を出すことはできる	困難や失敗におちいても、諦めることはなく、修正はわずかであり、簡単な結果を出している	困難や失敗におちいると、諦めそうになり、形式的には結果を出しているが、中途半端ではある	困難や失敗におちいると、簡単に諦め、他に原因や言い訳を求め、極めて中途半端な結果で終わる
メタ認知	活動の省察と意味づけにより、自分の強みと課題、理論と現実の間の矛盾や葛藤を認識できる	活動の深い省察と意味づけにより、自分の強みや課題を多角的に理解し、理論と現実の間の矛盾や葛藤について、正確に説明ができる	活動の省察と意味づけにより、自分の強みと課題を理解しており、理論と現実の間の矛盾や葛藤について、ある程度正確に説明ができる	活動の省察と意味づけを一応しており、自分の強みや課題を挙げることができ、理論と現実の間の矛盾や葛藤について、何らかの説明ができる	活動の省察と意味づけは多少できており、強みや自分の課題をわずかに挙げられ、理論と現実の間の矛盾や葛藤について少しは説明ができる	活動省察と意味づけは形式的なものであり、自分の強みや課題をあまりわかっておらず、理論と現実の間の矛盾や葛藤についての理解は浅い	活動の省察と意味づけをしておらず、自分の強みや課題について理解しておらず、理論と現実の間の矛盾や葛藤について考えていない
学習棄却	学習棄却することで、新しい価値を受け入れ、状況に適應できる	身につけた知識や観念を批判的に捉え、学習棄却することで新しい価値を積極的に取り入れ、状況への適應力がとても高い	身につけた知識や観念をある程度批判的に捉え、学習棄却し新しい価値を取り入れることができ、状況への適應力も比較的高い	身につけた知識や観念を少しは批判的に捉えようとしており、学習棄却をわずかにでき、状況への適應力は普通である	身につけた知識や観念を批判的に捉えようとはしており、学習棄却をしようとしているが、状況への適應力は低い	自分の知識や観念を疑うことは難しく、学習棄却することもほぼできず、状況への適應力はかなり低い	自分の知識や観念に固執し疑わず、学習棄却ができず、新しい価値に興味がなく、状況への適應が極めて苦手である
「臨床性」 総合	主体的・即興的に行動し、理論と現実の矛盾や葛藤を認識しながら、状況への適應していくことができる	高い意欲で主体的・即興的に行動し、深い省察により理論と現実の矛盾や葛藤を認識しながら、状況への高い適應力がある	意欲をもって主体的・即興的に行動し、省察により理論と現実の矛盾や葛藤を認識し、状況への適應力も比較的高い	ある程度の意欲で、主体的・即興的に行動し、一応の省察により、理論と現実の矛盾や葛藤に目を向けていて、状況への適應力はある	それなりに主体的・即興的に行動し、多少の省察により、理論と現実の矛盾や葛藤を、少しは意識しているが、状況への適應力は低い	最低限主体的・即興的に行動しているが、省察は形式的で、理論と現実の矛盾や葛藤についての理解は浅く、状況への適應力はかなり低い	主体性や即興性がまったくなく、受け身の姿勢で、省察をしておらず、理論と現実の矛盾や葛藤を考えておらず、状況への適應力は極めて低い

国際性ループリック

DP：多様な国、言語、価値、利害関係を背景とする主体とコミュニケーションできる国際的な表現力と協働力を身につける。

評価の観点	評価の尺度	5 最高基準	4 中間基準（上）	3 中間基準（中）	2 中間基準（下）	1 許容基準	0 不合格
	観点の説明						
国際的 コミュニケーション 力	外国語の運用能力があり、情報収集・議論・発表ができ、苦手意識がない	外国語の運用能力は充実しており、高い精度で情報収集・議論・発表ができ、自信を持って積極的にコミュニケーションしている	外国語の運用能力は比較的高く、情報収集・議論・発表は滞りなくでき、自信を持ってコミュニケーションしている	外国語の運用能力があり、情報収集・議論・発表は一応でき、コミュニケーションに苦手意識は少ない	外国語の運用能力は多少あり、情報収集・議論・発表はほとんどできていないが、コミュニケーションに苦手意識がある	外国語の運用能力は低く、情報収集・議論・発表はほとんどできておらず、コミュニケーションに強い苦手意識がある。	外国語の運用能力がほぼない、情報収集・議論・発表はまったくできておらず、コミュニケーションに深刻な苦手意識がある
国際知識	外国人利害関係者の、文化や価値観に配慮し、理解する姿勢がある	外国人利害関係者の文化や価値観に対し、豊かに想像力を働かせながら、適切に配慮と理解をする姿勢が身につけている	外国人利害関係者の文化や価値観に対し、しっかりと想像力を働かせながら、配慮と理解をする姿勢が十分にある	外国人利害関係者の文化や価値観に対し、想像力を働かせながら、一定の配慮と理解をする姿勢がある	外国人利害関係者の文化や価値観に対し、想像力をわずかに働かせながら、一応配慮や理解をする姿勢がある	外国人利害関係者の文化や価値観に対し、想像力を働かせながら、配慮や理解をする姿勢が少しはある	外国人利害関係者の文化や価値観を理解せず、想像力を働かせず、まったく配慮も理解する姿勢がない
国際意識	自分をグローバル社会の一員として位置づけ、世界情勢や国際的な問題・課題を理解している	自分をグローバル社会で活躍する主体として位置づけ、世界情勢や国際的な問題・課題を、広く正確に理解し、解決する意識がある	自分をグローバル社会の一員として位置づけており、世界情勢や国際的な問題・課題を十分に理解している	自分をグローバル社会の一員として位置づけており、世界情勢や国際的な問題・課題について、一定の知識・理解がある	自分をグローバル社会の一員として、なんとなく位置づけてはいるが、世界情勢や国際的な問題・課題の知識は薄い	自分をグローバル社会の一員として位置づける意識は低く、世界情勢や国際的な問題・課題の知識はかなり少ない	自分をグローバル社会の一員として位置づけていない、世界情勢や国際的な問題・課題を、自分には関係のないことだと思っている
国際協働	外国人と協働で、グローバルな視点で対話し、課題解決の活動ができる	外国人と協働で、グローバルな視点で対話し、課題解決のプロジェクトを立ち上げ、高い水準の成果を出し、発表している	外国人と協働で、グローバルな視点で対話し、課題解決の活動をしたが、成果に関する発表ができる	外国人と協働で、グローバルな視点での課題解決について、話し合ったり発表し、簡単な活動ができる	外国人と協働の、グローバルな視点での課題解決に関する、話し合いや発表に参加した	外国人と協働することは苦手であるが、グローバルな視点での課題解決に関して、無関心ということはない	外国人と協働することがない、グローバルな視点での課題解決活動を何もせず、興味もない
「国際性」 総合	国際的な意識や配慮があり、外国語を用いて外国人と協働しながら、社会課題解決の活動を展開できる	国際的な意識や配慮が極めて高く、豊かな外国語運用能力により、外国人と協働で、国際社会の課題解決のプロジェクトを、高い水準で推進できる	国際的な意識や配慮が高く、十分な外国語運用能力により、外国人と協働で、国際社会の課題解決のプロジェクトを、ある程度の水準で推進できる	国際的な意識や配慮は一定程度あり、外国語をある程度運用でき、外国人と協働での、国際社会の課題解決のプロジェクトを、何かしら進められる	国際的な意識や配慮はそれなりにあり、外国語を多少運用でき、外国人との協働での、国際社会の課題解決の活動に、一応参加できる	国際的な意識や配慮はわずかにあり、外国語の運用能力は最低限度であり、外国人との協働での、国際社会の課題解決の活動に、関心はある	国際的な意識や配慮が極めて低く、外国語の運用能力がほぼなく、外国人との協働での、国際社会の課題解決の活動に、まったく興味がない